

# 小噺・落語入門サロン

■ 前座 (今日の話題・話のネタ)



「ヒライ信」畳文 (じょうぶん・ことば2)

## 落語に出てくる川柳・狂歌・ことわざシリーズ

「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」→道灌

八五郎「隠居さんの後ろの、屏風に小汚い絵がべたべた貼ってあるけど、何ですそれ？」

隠居「これは張り交ぜの小屏風と言って、歴史画を扱っている、古びたところが値打だ」

八五郎「一番上の絵はおもしろいですね、何かちよろちよろ流れがあつてさ、椎茸が燻りをくらったような、しゃっぽかぶった侍が、虎の皮のももしき履いて、弓を持って突っ立っている、そばで女がお盆の上に黄色いもん出してますけど、何ですそれ」

隠居「これは騎射笠って言うもんだ、履いているのは行藤 (ぬかばき)、女の人が、盆に載せて差し出しているのは、山吹の花だよ、」

八五郎「山吹の花ですか、あっしは黄色いからライスカレーかと思った」

隠居「これはお前有名な太田道灌の「山吹の里」の伝説を描いたものだ。

治にいて乱を忘れず、足慣らしのために山中に狩くらにお出かけになった。

すると俄かな村雨だ。道灌公、雨具の持ち合わせがなかった、一軒のあばら家を訪れて、少女に雨具を所望すると、盆の上に山吹の花を一枝手折って、お恥ずかしゅーございますと言って差し出した。その時道灌公はお分かりにならなかった。

家来の一人がこれは、「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞかなしき」という古い歌がございます。山吹は花が咲いても実の成らないもの、お貸しする蓑がございません、実と蓑をかけてのお断りの意味でございましょうと申し上げると、道灌公「世はまだ歌道に暗いな」といって、一生懸命勉強して、後に日本でも指折りの歌人になった。」・・・

■ 二つ目 (小咄の稽古)

映像や音声から学ぶ、小ばなしのコツ・つぼ

「日常生活から拾う“まくら”」

そのあと、皆さんの小ばなし披露とアドバイス

■ 大喜利

今回も **謎かけ** で、お題は「郵便ポスト」「つばめ (燕) <sup>ツバメ</sup>」とかけて

次回は2022年7月4日(月)「体温計」「招き猫」